

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【海老沼小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	算数科においての全体的な基礎的基本的な知識・技能の定着は図れてきた。しかし、個人の定着差が大きく今後も個別に支援していく必要がある。次年度以降に向け、国語などの他教科への広がり、また算数科においても分野別に重点をおいて改善するための取り組みを考え、検証していく。
思考・判断・表現	根拠となる部分を引用し、自分の考えを具体的に書くことに課題が見られる。そのため、資料活用の方法や扱い方を他教科の中で実践的に使わせたり、日常の中で必要感があるような設問にして取り組ませたりしながら繰り返し学習させたい。そのやり方について学校全体として学校課題研究等で考え取り組んでいく。
主体的に学習に取り組む態度	全体的な学習へ向かう前向きな姿勢は今後も維持できるよう、授業の導入や展開を工夫し、児童の必要感や関心を高める手立てを講じていく。また、学びへの姿勢に対して確かな学力の定着が本校の課題である。そのため「自分で考えたことをまわりに広げること」についての肯定的な回答率が向上するようICT機器の活用や学習機会の確保等の手段を講じながら取り組んでいく。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の算数の「知識・技能」に関わる領域において、R4年度の自校の結果より3pt向上させる。	⇒ 「ドリルパーク」「スタディサプリ」の活用、計算の反復練習に取り組む、学習記録を残していく中で学期ごとの振り返りを行い、修正・補正をさせていく。授業内に「スタディサプリ」を積極的に活用する。
思考・判断・表現	R5年度のさいたま市学習状況調査の算数の「思考・判断・表現」の領域においてR4年度の自校の結果より3pt向上させる。	⇒ 「オクリンク」やteamsの共同作業による思考の可視化・共有化を行い、思考の深まりをもたせる。単元の中で振り返る機会を設け、自己の理解度を把握するとともに適切な助言と支援を繰り返し行っていく。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力学習状況調査及びさいたま市学習状況調査において「算数の解き方が～」の設問に対し、肯定的解答の割合を90%以上にする。	⇒ 日々の学習活動の中で「個別最適な学び」としてICT機器を含めた複数の解き方を学ぶとともにワークテストやドリルなどの見直し、修正を必ず行うことで丁寧で課題に対して粘り強い姿勢と態度を身につけさせる。

<小6・中3>(4月～5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	スタディサプリやドリルパークなどを含めた基礎的な内容の反復を繰り返し、ある程度の定着が見られ、国語「書くこと」や算数「データの活用」「測定」分野で1～2ptの向上がみられた。	B
思考・判断・表現	R4年度の結果と比較してptの向上は見られず、目標としていた値の達成には届かず厳しいものの本校全体の無回答率は減少し、全く考えを出せずにつかなくなった児童は少なくなってきたと考えられる。	B
主体的に学習に取り組む態度	課題に向けて自ら考え取り組んでいたかの設問では、今年度も多くの児童が前向きな答えをもっていた。「算数の授業で学習したことは将来社会に出たときに役に立つと思いますか」の設問において肯定的な回答は96.2%となっており、目標としていた90%以上を大きく上回り前年度から1.2%向上した。学校課題研究として取り組んできた成果が表れたと考えられる。	A

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査算数の「知識・技能」において全国の平均値と比べ-2.4だった。計算問題の正解率にはある程度の向上はみられるものの、誤答が多い(無解答率は低い)。今後は計算問題に多く取り組んでいくとともに、見直しや検算の習慣化、定着をはかる。
思考・判断・表現	算数「データの活用」の領域において特に課題が見られた。二つのグラフを読み取り、見比べて違いを言葉や言葉と数を用いて記述する問題で無解答の児童が多い。資料を読み取る機会を多くもつとともに、着目するポイントや考え方を互いに説明し合う機会を設け、資料の扱いにより慣れる活動を重視したい。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査「今回の算数の問題では言葉や式、数を使ってわけや求め方などを書く問題がありました。それらについてどのように解答しましたか。」で、最後まであきらめず解答しようと努力したと答えた割合が82.9%で全国平均値を上回った。これは、授業内の適用問題に取り組む際の指導や家庭学習などによる反復練習をくり返し行った成果が表れてきたものと考えられる。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析			
※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考値扱いとなります。			
小3	国語の言語文化に関する設問につまずきが見られる児童が多かった。一方で国語「書くこと」については昨年度に比べよい結果となった。算数では、知識・技能に関わるよりも思考・判断・表現に関する設問を難しいとする児童が多くみられた。	小4	国語では領域差が多く出た。「話す・聞く」では、よく理解できていたものの「読む」ことに関する設問や言語文化の領域に関する設問では解答できない児童が多かった。算数では小数や分数、計算のきまり等の基本的内容の定着が課題とみられる。
小5	国語では「書くこと」の領域で他教科よりもよい結果となっている。算数では表や数値に着目するデータ活用領域の結果が良好であった。国語・算数ともに文章題など思考を伴う分野での設問を難しいと感じる児童が多くいることが分かった。	小6	国語「書くこと」の領域や算数「データの活用」では、よく理解し定着ができていた。一方、「変化と関係」の設問では無解答や誤答が多く計算はできているが、必要な要素をもとに答えを導く点に困難さを感じている児童が多くいることが分かる。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	R5年度さいたま市学習状況調査の算数の「知識・技能」に関わる領域において、R4年度の自校の結果より2pt向上させる。	⇒ 授業や反復練習に取り組む際、検算の仕方を確認したり、見直しの大切さを考えたりする場面を設定する。誤答を減らす。
思考・判断・表現	R5年度のさいたま市学習状況調査の算数の「思考・判断・表現」の領域においてR4年度の自校の結果より2pt向上させる。	⇒ 今後も引き続き考えたり、発表したりする場面でICT機器を共有化、理解の深まりを求めていく。互いのよい意見を評価したり、掲示して活用したりする。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力学習状況調査の結果を踏まえ、さいたま市学習状況調査において「算数の解き方が～」の設問においてR5年度全国学力学習状況調査結果より2pt向上させる。	⇒ 算数の授業内で単元・領域により習熟度に合わせた算数独自の座席や自ら授業の進め方を選ぶ個別最適な授業実践に努め、より主体的に学びに向かえる体制を構築していく。